

北地域後援会は我孫子1~4・久寺家・台田・つくし野・並木・根戸・布施のエリア



あけぼの山公園 梅林

# しらかば北

発行責任者  
井上文夫

1月22日、17名が参加して「市政報告と新春のつどい」を開きました。

**(1) 市政報告**

岩井康・船橋まさる両市議員から12月議会の報告がありました。

船橋議員は①少年野球場に上水道施設を②アピスタの階段に転落防止策を③台田2/3丁目に信号機設置などを取り上げたこと、また、岩井議員からは①市議の質問が今までになく多かつたこと②市は国保や給食費・介護・水道料など来年度以降は財政の赤字を理由に、値上げを企んでおり、市民の方々と力を合わせて阻止していきたいとの報告がありました。



岩井康議員の報告

## 市政報告と新春のつどい

**(2) 新春の集い**

続いて行われた新春の集いは、お茶とお菓子で和やかに話し合いました。

その中には「我孫子はいい街なのに、人口が減り続けるのは残念だ」「布佐地区は学校統廃合ではなく、少人数学級で充実した教育を」「私たちが市の予算を分析して、実現に優先順位をつけるようになりたい」などの発言がありました。

今年の抱負では、「体にガタがきているが、健康に気をつけて頑張っていきたい」が参加者の共通した思いでした。

明るくて元気をいただいた「新春のつどい」でした。(井)

### 第3回 「我孫子市議と話し合おう」集会が開かれました。

1月19日「市民の声 あびこ」が主催する第3回「我孫子市議と話し合おう」があびこシヨツピングプラザで開かれました。

参加者は51人。船橋、岩井、内田、西川、深井の5人の市議が参加しました。

問題提起として「市民の声 あびこ」から小林さんがパワーポイントを使って「手賀沼を生かしたまちづくり」のテーマにそって各種のデータを紹介しました。

市議側から財政問題や外国人学生（対岸利根町の大学に在籍する）の問題での補足説明がありました。

市民側からは多岐にわたる意見が出て、「話し合い」は進みました。新聞報道にもとづく市庁舎建設の問題、国保税の3年連続引き上げによる負担者の生活苦、単身高齢者世帯の問題、布佐地区の学校統廃合問題など現状が語られました。

また赤ちゃんを連れた若いお母さんが、我孫子市の住宅都市としての役割などについて積極的に発言していたことも印象的でした。

とにかく主催者側（「市民の声 あびこ」が市政にかかわる一定の問題提起をし、提起された問題に対し参加した市議がそれぞれの見解を述べ、さらに市民が意見を述べる。すぐには結果は出ませんが、財政問題（財源）をはじめとして我孫子市の抱える課題を市議会議員参加のもとで「話し合う」このスタイルを継続していくことが大事だと感じました。(竹内)

### 「我孫子市の教育をよくする会」発足

この会は、将来を担う子どもたちのために、我孫子市の教育における諸問題について考え、より良い教育環境を実現していくための取り組みをしていこうという趣旨で発足した。

1月25日の総会には28人が集まり、元教員、不登校児童の祖母、給食無償化の運動を進めてきた方、スクールソーシャルワーカーなど9人から様々な発言があった。学校規模、不登校、教員不足、給食無償化、ひと学級の児童・生徒の定数など、どれをとっても簡単に解決できる問題ではないが、市民として真剣に向き合っていきたいという思いが参加者の中にはあった。

今後は、より多くの市民の参加を募り、市民運動として広がっていくことを期待したい。(新)



1月12日成人式に参加した新成人たち

**華やかに成人式**

新成人は1448人で、昨年より43人増えました。

### 花火

しんぶん赤旗の1月7日から4回にわたって「いまに生きる田中正造」が載った。第1回は「鉾毒の原点するす」として足尾銅山の公害は明治23年（1890）8月、渡良瀬川堤防決壊により鉾毒が農地に流れ込み鉾毒問題が明らかとなる▼第2回以降、田中正造の生涯をかけた鉾毒被害に対する活動が続く。翌24年12月の第二回帝国議会で鉾山の鉾毒停止を要求（前年第一回衆議院議員選挙に当選後連続6回当選）。明治34年3月、最後の議会で鉾毒問題をそのまま放置すれば人類の滅亡だと警告し議員辞職▼12月10日、死をも覚悟して天皇に直訴するも失敗。政府は渡良瀬川に貯水池を造るとして明治40年谷中村の最後まで抵抗した16戸を強制破壊。田中正造は谷中村復活をと多忙な日々の中、大正2年（1913）死す。71歳の生涯であった▼田中正造の生涯を克明に記した「辛酸・田中正造と足尾鉾毒事件」（城山三郎著）を読む。鉾毒問題のために代議士の地位も財産も名誉も家族も全て投げうち、遊水地反対訴訟のため乞食のような姿で、亡くなった時の持ち物は新約聖書と幾つかの小石だけであった▼真の文明とは、山を荒らさず、川を荒らさず、村を破らさず、人を殺さざるべし、という正造にとつては山・川・村・人権が尊重されることこそが真の文明であった。昨今の裏金議員と何と違ふことか。(江)

# ソウルを旅して

## 渡辺誠二

(前号より続く)

道を上がると、ソウルを一望できる南山頂上にあるNソウルタワーへのロープウェイ乗り場があります。片道切符を買い、ロープウェイで頂上へ。Nソウルタワーの展望台へ上がったのですが、天候が悪くソウルを一望はできませんでした。帰りは階段の小雪を踏みしめながら下りました。途中、朝鮮神宮拝殿跡がありました。この南山(ナムサン)のふもとに日本は伊勢神宮に次ぐ大きな朝鮮神宮を建設しました。この跡地の脇に安重根(アンジュングン)像と安重根義士記念館があります。安重根は、日本では伊藤博文を暗殺したテロリストと紹介されていますが、韓国の独立を訴えた義士と称えられています。記念館は工事中で入館できませんでした。

役所の雰囲気があります。今は図書館になっていている部分もあり、図書館を見学しました。旧庁舎を出ると大通りから大きな音が聞こえます。近くに行くと、集会が開かれていました。



尹大統領支持派の集会

あとで分かったのですが尹大統領の弾劾に反対する大統領支持派の集会でした。びっくりにしたのは集会の様子、大型モニター、大音響スピーカーが何台もの大型クレーンで吊り下げられています。その下には電源車も。日本の集会とは大違いです。さらに奥の、光化門前広場では弾劾賛成派の集会が同時刻にやや離れた開催されていました。どちらも平和的に集会をしています。

光化門を出て、鍾路(チョンノ)の大通りに向かいました。この大通りには、タプル公園があります。1919年の3・1独立運動で宣言書を読み上げた場所です。八角亭があります。鍾路タワービルの前に全準(チョンボンジュン)の銅像があります。甲午農民戦争の指導者です。甲午農民戦争とは日清戦争後に、朝鮮から日本軍の撤退を求めて日本軍と戦った農民軍です。近代兵器を持つ日本軍に破れ5万人くらいが死亡したと言われます。

光化門から景福宮へ、観光コースを歩きました。景福宮の入場料、65歳以上は無料です。パス

ポートを提示して入ります。中は広く、歩き疲れます。光化門も何度も再建されています。光化門も新しい。1920年ごろ、朝鮮総督府がこの景福宮の中に建設されました。この時、光化門が撤去されることになりましたが、柳宗悦が撤去に反対の論陣を張り、東側に移築させました。

ソウルの街頭には、日本の植民地支配に抗した人や3・1独立運動に参加した人たちの像がたくさん立てられています。これらの像の意味を考えるのも日本と朝鮮・韓国の歴史で大事なことと思います。

(続く)

### 「北」地域の情報 わくわく広場つくし野店 オープン



昨年秋に閉店した新鮮市場に隣接するつくし野の我孫子ワイレツジに1月22日わくわく広場つくし野店が開店しました。さほど大きくない店内ですが、野菜などの食料品が並べられています。

### 富山稔さんに聞く ②

#### 写真集『世界のワイルドフラワー』



写真集は地中海、ヨーロッパとアフリカ、マダガスカルが写真集Ⅱ(上掲写真集)はアジア、オセアニア、南北アメリカの野生の花が収録されている。

話を聞いて驚いたのが、南アフリカにはなんと30回も出かけているという。こうして出来上がった写真集である。

こうした野生の花のツアーを富山さんが企画、実行したのは下地があった。富山さんは子供のころから昆虫や蝶が好きで、大学生のころには生物同好会に入会し、日本野鳥の会の会員にもなっていた。大学卒業後海運会社に勤めていたが、会社で新規事業をはじめることになり、旅行会社を設立することになったが、一般的な観光ツアー会社ではなく日本ではまだやっていなかった海外の野生の花のツアー会社を立ち上げた。

ツアーは野生の貴重な花を訪ねる旅なので、ツアー客は10人前後でユニークなツアーだったのりでピーターも多かった。またツアーには現地の植物学者が同行するなど特徴のあるツアーであった。1回のツアーは10〜12日、多いときは年間12回企画した。

写真は、当初はツアー先の自然や野生の花の状態を紹介するために始めた。だから写真集に載せた花の写真は95%はツアーで撮ったものである。現在、撮影した世界各地の野生の花の写真を東大の総合研究博物館と協力して整理を行っている。

日本人で世界の野生の花の写真撮っているのは富山さんだけである。(竹)